

郷土史 × 公共交通 × 観光 — 予土線沿線に目を向けて

酒井知紗 曾我亮太 宮本瑛太 木下登桃子
指導者 長尾 起条

1. 研究動機

予土線は地域の貴重な足
しかし… 人口減・車社会
⇒ 利用者数減

廃線の危機！

⇒ 地域のため、観光のため、どうにかして予土線を残したい！何かできることはないだろうか？

2. 現 状

現在予土線は**廃線の危機**に瀕している

- ・ 輸送密度という面で見してみる
1989年度 575人 → 2023年度 150人
→ 34年間で425人、7割も減少
- ・ 営業係数という面で見してみる

↓ 2023年度で1329

(営業係数は100以上だと赤字)

→ 予土線は**四国で一番の赤字路線**

・ 一方、全国に赤字路線はたくさん存在する
→ 予土線だけの**「オンリーワン」**をみつけてPRしていくことが必要である！

3. 研究方法

① 第1段階…情報収集

地誌を活用して地域の歴史的・景観的な観光資源を調査し、必要に応じて実地調査を行う。地域の方々の意見も収集。

② 第2段階…PR活動

収集した情報をもとに予土線沿線の名所・歴史をまとめて地誌形式の本を作成。パンフレット形式の簡易なものも作る。

③ 第3段階…検証作業

期間を定め、営業係数・輸送密度の変化で効果を検証する。

4. 今後の展望

- ・ 現段階は①の最中であり、実地調査は未実施

○2年次の予定

- ▶ 実地調査などの情報収集の時間をより多く設ける。
- ▶ 予土線の魅力を十分に伝えることができる本やパンフレットを作成し、イベント等を通じてPR活動を行う。